

つながりを切らない
孤立させない
新しいつながり方を提案する

つながる通信

第28号

発行日 2020年9月10日(木)

発行元

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

〒981-0932

仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F (CLC内)

FAX: 022-727-8737 E-Mail: t-net@clc-japan.com

ホームページ: <https://www.t-net.online/>

- ・民生委員、児童委員の皆さんに…
- ・サロンや地域のボランティアの皆さんに…
- ・配食のお手紙に添えて…

こんなふうに使ってね

この通信の印刷、配布はご自由にご利用ください。
記事やイラストの一部を転載・転用する場合は、
t-net@clc-japan.comまで
ご連絡をお願いいたします。

顔を見てつながることが、安心につながる

地区のスピーカーで
ラジオ体操と唱歌を流す

沖縄市泡瀬は、沖縄市の東部、海岸沿いに位置します。泡瀬第三自治会の範囲となるのは泡瀬5丁目(人口2,489人)と6丁目(同1,132人)、高齢化率32.1%の地域です(2020年7月末日現在)。

ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯も多く、防災の観点からも、「万一のときに連絡がとれるように」と自治会では気になる人に登録を呼びかけ、その家族の連絡先などを把握をしています。また、活動の中心となる公民館では、歌声サークルや「まーみな会」と呼ばれる活動、ミニデイサービス、ゆんたく(おしゃべりの会)など、住民同士がつながるさまざまな活動がされていました。

泡瀬第三自治会(沖縄県沖縄市)

ちなみに、「まーみな」とは、沖縄の方言でモヤシのこと。まーみな会とは、自治会長の仲間紀子さんがモヤシを大量に購入し、地区の高齢者と一緒にモヤシのひげとりをする会です。ひげとりしたモヤシの重さをはかり、再度袋詰めして、LINEで自治会や婦人会の仲間に「まーみながあるよ。買う人」と声をかけると、「〇袋ほしい」などの返答があります。その利益を積み立てて、「普段行かないところに行こう」とホテルのランチに出かけたり、「最近ほーニングがはやっているらしい」と、モーニングを提供するお店に出かけるなど、参加する高齢者の楽しみの場になっています。

ですが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から公民館は閉館となり、利用できない状況になりました。顔を合わせる機

会がなくなってしまうのです。

そこで立ち上がったのが、仲間さん。「閉じこもることで体力が落ちて、再開できるときに集まらなくなってしまうのでは」と危惧しました。10時と15時の1日2回、区内のスピーカーを利用して、朝はラジオ体操、午後は唱歌を流します。スピーカーの近所の家には、音で迷惑をかけるかもしれない、と事前に説明に向かいました。また、おたよりをつくって全世帯に配付し、ラジオ体操と唱歌の放送を周知しました。

10時になると、「家の中でも外でもいいから一緒に体操しよう」などとDJ風に仲間さんが元気よく呼びかけ、ラジオ体操が始まります。終わると、「『自治会長散歩』に行きますよー」と言い、シルバーカーにスピーカーを載せて、音楽をかけながら散歩し、「15時には歌を流すから一緒に歌おうねー」などと声をかけます。

15時の唱歌は、曜日ごとに曲を決めています。歌詞カードをつくり、地域の広報紙などを配付する協力員の力も借りて、各世帯に配付しています。「今日の歌はよかったよ」などの感想も届いているといいます。

自治会長散歩は、5丁目と6丁目を交互に行き来しています。特に気にかけているのは、自治会への登録者。毎日歩いて巡ることがたいへんになったため、自治会の軽トラックでまわるようになりました。軽トラックにはバスタオルでマスクを模してかぶせ、マスクの着用も呼びかけています。マスクをしていない人を見つけるとトラックから降り、婦人会でつくった手づくりのマスクを渡しています。



自治会長の仲間紀子さん



思い思いの場所でラジオ体操



軽トラックで町内をまわり、見守りとマスク着用の声かけ



自治会長散歩で声かけ

地域イベントも感染対策を行い、開催方法を工夫することで可能に

泡瀬第三自治会では、毎年、夏祭りを開催しています。地域外からも来客があるなど、毎年、盛会のお祭りですが、今年は新型コロナウイルスの感染予防の観点からも、例年どおりの開催は難しいという判断をせざるを得ませんでした。

それでも、「自粛が続く、子どもたちも活動が制限されている。何かできないか」と、中止にするのではなく工夫をして開催する方法を選択しました。時期を「感染者が少ない今の時期に」と7月中旬の土曜日に設定。幅広く参加を募るのではなく、自治会会員、第三支部会員を対象とした事前申し込み制にして来場者を把握しました。これは、大人数での混雑を避けることに加え、万一、罹患者が出た場合にも連絡をスムーズにするための方策です。さらに、例年は会場で飲食ができましたが、持ち帰りの弁当を渡して会場での飲食は行わない、基本は屋外でのイベントとして隣のテントとの間隔を十分にとる、フラダンスなどの発表は室内で行うが観客は外のテントから見ると、などの工夫がなされました。

また、空くじなしの抽選会では、1、000円分の「地域振興券」や「駄菓子屋よりみち券」が参加者に配られました。自治会内のお店で利用ができ、地域の活性化のために考えられました。「やらないではなく、どうやってでき



おそろいのポロシャツで、「声かけ隊」の出陣式

るかを考える」という仲真さんの思いに多くの協力者が集まり、当日は220人が来場するまつりとなり、各所から「楽しかった」という声が聞かれました。

既存の団体や協力者の力を活かして見守りから声かけへ

さて、自治会長散歩で軽トラックで地域をまわる仲真さんですが、やはり毎日のこととなるとたいへんです。泡瀬第三自治会は、婦人会の結束力が強かったこともあり、婦人会に「一緒に声をかけていかない？」と呼びかけます。「自分の班だけでいいから、ちよつと声をかけてくれない？」と言うと、12人ほどが賛同しました。おそろいのポロシャツを作成し、8月18日に「声かけ隊」の出陣式を行い、登録者を中心に、声かけ隊による見守りや声かけが始まりました。

仲真さんは、「ほかに協力してくれそうな人がいるので、声かけ隊は30人くら

いになると思う。30人いれば、一人で4人くらいの声かけになる」と話します。

「ひとり暮らし世帯や、高齢者世帯が多い地域だから、顔を見ておかないと不安なのよ。声をか



しあわせさん会員まつり

泡瀬第三自治会だよりの8月号で、「しあわせさん会員まつり」の報告

けたら、何かあったときにも話してくれるから」と仲真さん。沖縄市地域包括支援センター東部北の饒辺里奈さんは、「地域の皆さんも、つながりがあるからこそ何かあったときにも連絡がしやすいですよ。気になることがあったらまずは自治会へ連絡を入れておられ、高齢者の相談などは私たち包括にもつなげてくださっています」と話します。それでも、「皆さんはやはり対面でゆんたくを楽しむことを望まれています。新しい生活様式を取り入れながらも、以前のように集まれることを心待ちにされています」と話してくれました。

つながるポイント

- ・「できない」ではなく、「できる方法」を考える
- ・気になる人を、みんなで声をかけ合える地域に
- ・地域活動を通じて気になる人と専門職をつなぐ

編集後記

朝の散歩コース。早朝に出会うお二人のご婦人と、言葉を交わせる間柄になりました。毎朝、1周300メートルの公園を3周したあとはベンチに座っておしゃべり、道行く人にあいさつや声かけをされています。時間が来たらまたそれぞれの帰路に。素敵な関係です。

「つながりを切らない」情報・交流ネットワークで最新情報をチェック!

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

<https://www.t-net.online/>



<各地の実践をお寄せください!>

「つながる通信」では、各地での実践を募集しています。「わがまちでこんな取り組みをしている」「私たちはこんな工夫をして、気になる人とつながっている」、そんな情報を編集部までお寄せください。後日、編集部より電話などで取材をさせていただきます、本通信やホームページ等で紹介させていただきます。情報は、E-mail: t-net@clc-japan.com、fax: 022-727-8737まで。E-mailの場合は、タイトルを「情報提供」としていただき、①活動内容、②ご担当者名、③ご連絡先を記載ください。本通信の感想やご要望もお気軽にどうぞ!